

《研究報告》

外来化学療法を受けているがん患者の副作用とセルフケア
－がん患者と家族の比較－清水 律子¹⁾, 松浦 美聡²⁾, 石間伏 由紀²⁾, 星野 純子³⁾, 宇佐美 久枝⁴⁾¹⁾ 前椋山女学園大学看護学部, ²⁾ 名古屋第二赤十字病院 (看護部), ³⁾ 岐阜県立看護大学,⁴⁾ 椋山女学園大学看護学部

要 旨

【目的】本研究は、外来で化学療法を受けているがん患者が自覚している副作用の有無と家族の認識している副作用が一致しているかについて明らかにするとともに、がん患者のセルフケアと家族支援の特徴について明らかにすることを目的とする。【方法】A病院の外来で化学療法を受けているがん患者に研究の主旨を口頭で説明し書面にて同意の得られた者で、がん患者と家族の双方から回答のあった44組を分析対象とした。がん患者には化学療法後の副作用の有無とセルフケア、家族には副作用に対する認識（ある、ない、知らない）と家族支援について自記式質問紙を実施した。【結果】がん患者の自覚している副作用と家族の認識している副作用の一致率が最も高かった項目は、脱毛（ $\kappa = 0.932$ ）であり、次いで、口内炎（ $\kappa = 0.645$ ）、悪心・嘔吐（ $\kappa = 0.630$ ）、皮膚障害（ $\kappa = 0.622$ ）、味覚異常（ $\kappa = 0.611$ ）、食欲不振（ $\kappa = 0.597$ ）、倦怠感（ $\kappa = 0.591$ ）、末梢神経障害（ $\kappa = 0.511$ ）、下痢（ $\kappa = 0.458$ ）、便秘（ $\kappa = 0.365$ ）であった。がん患者のセルフケアと家族支援においては、がん患者は医療者に相談している者の割合が多い一方、家族は食事に関する支援をしている者の割合が多かった。【考察】外観上の変化が少なく、がん患者の訴えがなければ分かりづらい下痢や便秘のような副作用は一致率が低かったことから、看護師は、家族が患者の副作用を認識し支援できるように援助する必要があると考えられる。また、看護師は、がん患者のセルフケアと家族支援の特徴を踏まえ、がん患者と家族の役割を調整しながらセルフケアが促進されるように援助することが重要であると思われる。

キーワード：外来化学療法, がん患者, 副作用, 家族, セルフケア